

ぼうさい通信 Vol.36



熊本県立湧心館高等学校 令和2年9月16日発行

今月のテーマは・・・「台風」

●台風の発生と接近、上陸について

台風の発生について、皆さんは何月頃が多い印象がありますか？

1980年以前は接近、上陸も含め、7月期に多くありましたが、近年は9月期に台風の接近上陸が多い印象へと変わりつつあります。では実際にはどうでしょうか。気象庁のHPで確認すると以下の表を見ることができます。

表を見ると、8月、9月が発生数、接近数、上陸数ともに年間を通し、多くなっていますが、この10年だけで見るとその状況はさらに顕著になっており、8月、9月が特に台風においては要注意な災害につながりかねないことが想定されます。

台風の平均値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	256
接近数(注意1)				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	114
上陸数(注意2)					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		



関東甲信越東北で甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風(台風第19号)の写真

※表の平均値は1981年～2010年の30年平均です。表の値が空白となっている月は、平年値を求める統計期間内に該当する台風が1例もなかったことを示しています。接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

(注1)「接近」は台風の中心が国内のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を指します。

(注2)「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指します。

●大雨、台風、風水害、土砂災害時の熊本県の防災情報

QRコードを読み込んでいざという時に確認できるようにしておこう。

「熊本県防災型統合システム」→



●過去の湧心館高校の「ぼうさい通信」

本校のHPにアクセスしてみよう。

HP <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/ぼうさい通信>(毎月16日発行)

●令和元年房総半島台風(台風第15号)

昨年9月に日本に上陸した台風を覚えていますか？9月7日から9日にかけて、台風の影響により、東海地方や関東地方では記録的な暴風となった所がありました。また、台風本体の雨雲の影響により猛烈な雨や非常に激しい雨が降り大雨となった所がありました。海上ではうねりを伴った大しけとなった所もありました。

このため、強風等による人的被害や建物等の被害、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、広域の停電などの交通障害やライフラインへの影響があったほか、土砂災害、浸水害がありました。

これを受け、気象庁では、「顕著な災害をもたらした自然現象で、かつ後世への伝承の観点から名称を定める必要があると認められる場合」に自然現象に名称を定めています。台風の場合、名称を定める基準となる被害規模を「損壊家屋等1000棟程度以上または浸水家屋1万棟程度以上の家屋被害、相当の人的被害など」としており、2019年台風15号/台風19号の被害はこれに達する甚大なものとなりました。

台風に名称を付けるのは1977年9月の「沖永良台風」以来のこと。自然現象全体では2018年の「平成30年7月豪雨」以来となります。



台風15号の暴風によるゴルフ練習場の鉄柱倒壊（写真）

●台風（大雨）の防災の手立て

○家にいたら



- 雨戸やシャッターを閉めよう。
- ラジオやテレビ、インターネット等で、最新の災害情報をチェックしよう。
- いつでも避難できるように雨具や非常用品などの準備をしておこう。
- とくとき屋外の様子を見て、浸水などの危険がないかを確認しよう。
- 浸水に備えて生活用品や家財道具を高い場所に移動しよう。
- 自治体などから避難勧告や指示が出されたら、すみやかに避難しよう。

○外出していたら



- 局地的豪雨があった場合、浸水の危険性が高い地下街や地下空間への避難は避けよう。
- 雨や風がおさまっても、河川やがけの近くなど、水害や土砂災害の危険がある場所に近づかないようにしよう。
- クルマを運転中の場合は、アンダーパスや地下道路の通行はなるべく控えよう。